

第6回京丹波町総合計画審議会 会議概要

日 時 平成28年6月23日(木) 午後3時15分～4時30分
場 所 京丹波町役場 議場
出席委員 総合計画審議会委員(欠席4人)、事務局 6名

1 開 会

・会長あいさつ

前半、各部会で議論いただいたので、その報告をいただき、さらに議論を深めたいと思う。忌憚のない意見を出してほしい。計画は行政のものではなく、我々の計画であり、我々の意見が入っていることが大事である。本日は、副部会長欠席により、私一人で進行させていただく。

2 第2次京丹波町総合計画骨子案、主要施策体系について

・各部会の審議結果報告

会 長 まずは、産業部会から報告をお願いします。

部会長 「移住」・「定住」を特化して挙げるのも一つの方法という意見があったが、見出しとの都合で、このままとすることになった。

将来目標像について、基本方針1の農林水産業を、農業、林業、水産業と分けてほしい。また、「移住定住」は基本方針2へ移行してはどうか。

基本方針2について、人材の「材」の字を「財」にするなどの提案があった。人材の育成については、産業分野における人材育成も加えてほしい。

自給自足という表現について、一家族が自給自足の生活をするイメージで捉えてしまうが、見る人に浸透するだろうか。「日本のふるさと」という言葉にはマッチしており、「自給自足的」となっているので、“個”の自給自足ではなく社会の中におけるものと、捉えられるのではないかという意見もあった。この場で審議していただきたい。

会 長 続いて、総務部会から報告をお願いします。

部会長 各地域にI・Uターン者があり、そういう人が新しい人を呼び込むので、交流会を開いてはという意見が出た。また、愛郷心をはぐくんで、子らが成長の過程で町を出ても帰ってくるようにするなど。

各学校とも児童数が減少しており、小・中一貫校を視野に入れることも考えていく必要があるのではないかという意見があり、これについてはメリット・デメリットを十分に協議する必要がある。

「自主防災」について、要綱が立ち上がっているがその後、進んでいない点について検討が必要ではないか。

基本方針5の「魅力の発信」について、地元にいる人も来た人も含め、皆で発信すると情報の届く範囲が広がるのではないか。以上。

会 長 続いて、福祉部会から報告をお願いします。

部会長 「環境問題が深刻化している」という記載について、環境問題が何を指すのかという点から議論を深めた。本町には、美しく素晴らしい自然があると言うが、川は汚れ、雑草が生え、林の荒れが目立っており、環境美化整備が必要である。

人材、子育て・教育の面では、幼保一元化について、幼稚園と保育所の違いやメリット、利用者の意見を十分に聞かないといけない。

村の活性化には、Iターンも大事だが、迎える側の意識改革が必要である。集落によって「区入りすべき」、「入ってほしくない」などルールが異なるが、ある程度柔軟な対応が必要となる。

会 長 ありがとうございます。各部会から報告を頂いた。産業部会からの「自給自足的」の文言への意見について、以前にも説明しており、すでに公開しているものであり、今後の変更はないと思うが。

事務局 文言は仮置きであり、変更は可能。2月審議会で柱を2本建てるより、一本で行くことになり、これにしている。このフレーズについては、当初に議論いただけたと思っている。「自給自足的」にはこだわりがある。それぞれが有機的に連動するもの。分かりにくいかもしれないが、見た人が興味を持ってくれる。本町オリジナルであると思っているが、事務局の考えであり、皆さんの意見をいただけたらと思う。

委 員 四月から委員になり理解度が進んでいないが、言葉のとおりだと思う。どこでもブランド戦略やっている。基本的に食を満足できるようにするのが自給自足。もっとすばらしい自然やアクセスの良いところは他にもあるが、災害の少なさは他の町に負けないと思う。先祖代々の土地を触っていないから。

会 長 人も地域力も機能的に活用して循環する。そういう意味での自給自足。人も環境にもいろんなものをもっている。防災面で安心なこともそう。そういう、もてるものを循環させるということがベースになっている。狭義の自給自足ではない。

私自身の疑問として、主要プロジェクトの「人」「緑」「風」、これをどう考えるか。私はまず人ありきと思うが、逆に地域産業が活性化してこそ人が来るという考え方もある。地域産業を前面に出すかどうか。

事務局 本町がまず力を入れているバイオマス事業と移住定住を一丁目一番地にあげたのみ。町施策の表現であり、ここで十分に議論していただきたい。

委 員 10年後をイメージした場合、時代によっては短期間で情勢が動くと思う。「女性の社会進出」と言っていたのが「一億層活躍」と言うようになった。人づくりには基盤産業が必要である。そこは踏まえるべきであると思う。

- 会 長 大事なところである。他に意見はないか。
- 委 員 バイオマス事業は外向けにアピールでき、町民がないものねだりではなく、自信と誇りを取り戻せるものと思う。本町でアピールできるものあれば、入れ替えたらい。他の市町や住民に向けて一番誇れるものを持っていくと良い。循環社会については、循環を物だけに例えず、子育て、森林、情報などこれらを自給自足すると、人づくりや地域づくりも循環すると考えれば、何ら問題はないと思う。
- 委 員 人口を増やす過程で、どういう産業を興すかと考えたら良いと思う。主要プロジェクトの並びは、これが分かりやすい。「人」と「緑」を入れ替えても面白いが。
- 会 長 前計画は、理想の目標人口をめがけて策定したが、今回は維持する人口を決めて、地に足をつけた計画とするもの。皆さんの意見によると、どう強調するかであって、内容はこれで可と思うが、いかがか。
- 事務局 計画を作成するときは、「農林水産業」の下に各業を設けて作成する。基本方針3にある福祉分野の区分との整合性は必要だが、一旦このままで、中分類が見えてきた段階で検討いただくのが、意見が出やすいと思うがどうか。
- 会 長 という事務局の考えだが、いかがか。どの部会でも移住定住が議論に出ていた。この点で意見を聞きたい。入ってくる人に対して、歓迎的でないという話を聞いた。戦略的に立ち居地が難しいという意見もあった、
- 委 員 基本方針1・2がくることも重々分かるが、移住定住に関わることは方針2の「人材」に含めてもいけるのではないかという意見があった。また、総合的な大科目なので、「農林水産業」でよいのではないかと再三言ったが、分けてほしいという意見が合った。
- 会 長 そういう手法もあろうかと思う。それを踏まえて、意見を頂けたらと思う。他にもこれはぜひという意見があれば出してほしい。また、「福祉」との整合性について、どこに視点を持ってくるのか。
- 委 員 事務局がさらに中・小分類に分けると言っており、次の提案資料が出たら委員もイメージがわくのではないか。
- 委 員 農林業で生活できるようにしようということはあるのか。
- 会 長 農林業の振興は、町の活力としてであり、生活を立てるものではないと理解している。事務局どうか。
- 事務局 主要産業であり、それで生活できれば、そこを目指すことが望ましいと考えている。
- 委 員 農林水産業で生活できればそれに越したことはないが、現実には難しい。活力作りから生業としてまでを含めての総合計画であると思う。
- 委 員 リーダーが実践してみせてこそ循環すると思うので、リーダーが腰負けするのではないかと思った。
- 委 員 現実に農林業で生計を立てている人もいる。

会 長 農業に専従されている方にも、この審議会の中で出会い、経営内容などを知った。まだご存じない人も多いと思う。いろんな意見を頂いて議論は深まる。これによってまとめとする。

4 その他

【次回審議会予定】

平成28年8月25日（月）午後1時30分～